

初年次教育の効果と課題(4)：在校生による スポーツ科学科スタートアッププログラム運営の事例

春日 芳美 (大東文化大学スポーツ・健康科学部)

Outcome and Additional Challenge of First-year Experience (4) : Practical Case of Department of Sports Science

Yoshimi KASUGA

1. はじめに

本稿は、大学教育における初年次教育の効果と課題を検討するためのひとつの事例として、大東文化大学スポーツ・健康科学部スポーツ科学科で行っている「スタートアッププログラム」を紹介するものである。「スタートアッププログラム（以下「本プログラム」とする）」については、2016年にも同様の報告をしている（春日ほか、2016）。今回はこれまで教員が中心となって行ってきた本プログラムの運営を、企画段階から在校生が関わる形式に変更した。このことによって、学生の満足度や教育効果にどのような変化があったのかを報告したい。

2. スポーツ科学科「スタートアッププログラム」について

2-1. 本プログラムの目的と運営方針

本プログラムでは、新入生間の交流、新入生と上級生間の交流、そして新入生と教職員との交流を意図した内容が組まれている。準備段階から複数の教員が関わり、プログラム当日も参加可能な教職員全員が参加する。これは、新入生に対して本学科の教職員全員が学生指導に熱意をもっていることを示す場としても重要な意味をもっているといえる。

今回のプログラムは、2019年2月から中心となる教員5名と新3・4年生4名によるワーキンググループをつくり具体的な内容の打ち合わせを行った。これまでのプログラムでは校歌指導、教員志望学生によるバレーボール大会運営をスポーツ科学科在校生の協力を得て行ってきたが、今回は在校生の関わる部分を大幅に増やし運営・進行の中心として活動してもらった。このことによって、運営学生の主体的な学びと新入生のプログラム満足度の向上を目指した。ワーキンググループ全体の打ち合わせは、2019年2月19日、2月27日、3月15日、3月25日、最終確認4月1日の計5回であった。

2-2. 2019年度「スタートアッププログラム」の内容

本プログラムは4月4日(木)、5日(金)の2日間を利用して行われた(資料1)。以下は、それぞれのプログラム内容の概要である。なお今年度は、挨拶の意義、学部の沿革説明、校歌指導をスポーツ・健康科学部の新入生全体(スポーツ科学科、健康科学科、看護学科)に対して行った。

・朝食会

両日とも朝8時30分から生協ビュッフェに集合し、大学生協から「朝ごはんプロジェクト」としての協力を得て、学生は一食200円で食事の提供を受けた(「ごはん」+「味噌汁」+「主菜」+「副菜」のセット。本来300円のセットを、大学から100円の補助を受けて提供)。座席の指定はせず、自由としている(座席は満席である)。これまで、電車の遅延等がない限り遅刻者や欠席者はほとんど出ていない。

・挨拶の意義についての講義

円滑なコミュニケーションを行う上で必要となる「挨拶」についての心構え、お辞儀の種類について解説する。

・学部の沿革説明

自身の所属する学部についての理解を深めることを目的として、教員から説明する。

・在校生による校歌指導

本プログラムでは、スポーツ科学科の上級生による校歌指導を行う。校歌は、1年次必修の「フレッシュマンセミナーA/B」の授業内で毎回斉唱するので、繰り返し練習する。

・英語プレイスメントテスト

1年次必修である英語のクラス分けのためにプレイスメントテストを行う。この結果はプログラム2日目の最後に学生に伝え、履修相談内で科目登録の番号を記載させる。

・昼食会

生協食堂の弁当(1食500円)を2日分用意し、クラスごとに教室を指定して昼食会を行う。なお、弁当の注文、受け取りのチェックは全て教員が行っている。

・PROGテスト

2018年度より大学の方針で行うこととなった。

・アイスブレイキング

学科指定ジャージの採寸と並行して、アイスブレイキングゲームを行う。アイスブレイキングとは、初対面の者同士の緊張を解きほぐす(氷った場の雰囲気溶かす)ことを目的として行われる活動のことである。今回は、学科ジャージの採寸と並行して、お互いの名前や趣味等を聞き、肯定的な相槌をうつ(A「名前は何ですか」B「○○です」A「素敵(かっこいい、かわいい)です」・・・というように続ける)ことで交流を深めるという活動を行った。

・9号館、10号館ツアー

スポーツ科学科の学生が使用することの多い9号館、10号館を案内し、ロッカーの使用方法的説明などを行う。

- ・大学生になるためのガイドブック

高校と大学の違い、DB ポータルの活用法、学食のおすすめメニューや高坂駅周辺の飲食店の紹介等、新生活で必要となる情報を在校生の立場から紹介した。

- ・スポーツコミュニケーション（バレーボール）

スポーツを通して新入生、在學生、教職員の交流をはかるためバレーボール大会を企画した。なお、企画運営は本学科の教職志望の学生が中心となって行っている。今年度は総合体育館が使用可能だったことから全クラス合同での企画となった。

3. アンケート結果の分析

3-1. 自由記述によるアンケートの結果分析

全プログラム終了後に行った「スタートアッププログラム 2019 に関するアンケート」¹⁾において、「スポーツ科学科では、なぜ今回の「スタートアッププログラム」を実施していると思いますか。その理由と考えられることを自由に書いてください」という質問を行った（資料2）。これは、本プログラムを通して新入生が何を得たのか、運営側の在校生・教員の意図をどのように汲み取ったのかということを知るための質問である。

回答の一部を抜粋すると、「まだ仲良くない同期とコミュニケーションをとるため」、「初めて会った人と深く交流するため、仲間意識を強くするため」、「友達をつくるため」と新入生間の交流に関する記述が多くみられた。

また、「新入生が大学生活で困ることを減らすため」、「なにもわからない1年生に大学のことを知ってもらうため」、「これから始まる大学生活への理解を深めて不安をなくすとともに主体的な充実した生活をおくるため」というように、新しい生活のスタートへのサポートであると理解する回答も比較的多く見られた。

さらに、「他の学科よりもスポーツを行っていく上で規律やコミュニケーションが必要になるから」、「他学部他学科との違い、またスポーツ科独自のシステムややり方を意識してもらうため」というように、スポーツ科の独自性に関連した記述もみられた。

これらの回答から、本プログラムの目的はおおむね理解されていたといえるだろう。

3-2. プログラムへの期待及び満足度

本プログラムに期待していたことがあったか、という質問に対しては、期待していたことがある者 90 名、期待していたことはない者 44 名（未回答 1 名）であった（表 1）。

期待していたと回答した理由としては、「友達がたくさんできそうだったから」というものが最も多く、「一日中ずっと一緒にいれば友達ができると思ったから」、「学科の人と仲良くなれるチャンスだと思ったから」というように友人関係の構築という期待が高かったことがわかった。

また、「大学のことについてまだよく知らないので、ガイダンス以外で受け取れる情報に興味か

あった」、「大学内の施設や大学で学ぶことについて知れる」、「学科の雰囲気を感じることができるのではないかと期待していた」というように大学生活への理解を深めたいとする考えが多くみられた。

一方、期待していたことがなかったという回答の理由としては、「あたりまえのことを言うと思っていた」、「とくに考えていなかった」、「何をするのかわからなかったから」、「学校のことをひたすら説明するだけだと思っていたから」というようにプログラムの内容を理解していないことが原因と思われる記述がみられた。また、「友達ができると思えなかった」、「不安がとても大きかったから」、「誰も知らない状態で人見知りなので、すごく不安しかなかった」、「英語のテストのイメージが強く不安だった」というように、新入学において期待よりも不安の方が大きい状態の新入生が複数いることがわかった。そして、「本来「羅針盤（履修上の諸注意を記載した冊子）」を熟読すれば把握できる内容であるし、学業を主体にとらえる学生においては、拘束される時間をもったいないのではないか」、「スタートアッププログラムの必要性を感じない」と、本プログラムが不要と考える回答が2名からあった。

質問3の、「参加した後、「スタートアッププログラム」に参加してよかったと思いませんか」という質問に対しては、133名がよかった、2名がよくなかったと回答した。

参加してよかったという回答としては、「いろいろな人と仲良くなれたから」、「他部活の人とも仲良くなれたから」、「たくさん知り合いがつくれた」、「周りの人と話すことができる機会を設けてくださったので不安が少なくなった。友達作りのきっかけが作れた」というように友人関係の構築に関連する記述が最も多くみられた。また、「スポーツ科はみんなフレンドリーでとても話しやすく部活をやっている人の中では全国に出ていた人もいてとても話を聞いて楽しかった」、「みんな協力して楽しめたから」と本プログラムを楽しめたことを挙げる回答がみられ、

また、「スポ科生としての思考などを再確認できた」、「大学やスポ科の雰囲気を知れた。先輩の話を聞いて、大学生活が楽しみになった」、「先輩方の話や、オーラを感じて大東文化大学のよさがより分かった」、「大学生としてすべきことがわかった」というような記述が複数みられ、今後の大学生活についてよい動機付けになっていることが示された。

一方、よくなかったという意見としては、「どっちでもいい」、「スポーツ科独自の活動についての説明はありがたいが、それ以外のことに関しては省略してほしいものもあったため」という2点が挙げられた。プログラム内容については今後のさらなる課題としたい。

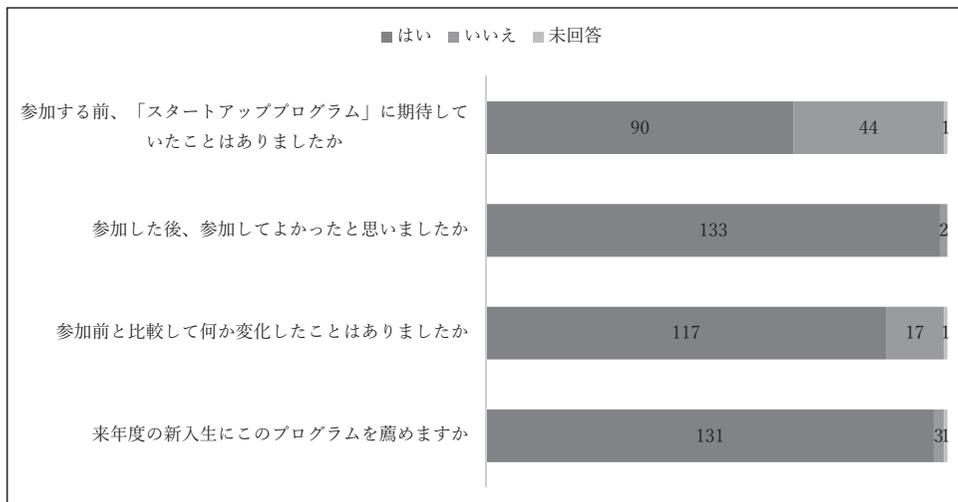


表 1 質問 2.3.5.6 回答

3-3. 最も印象に残ったプログラム内容

最も印象に残ったプログラム内容では、スポーツコミュニケーションが101名、アイスレイキングゲームが91名と非常に多く挙げられた（表2）。

スポーツコミュニケーションを挙げた理由としては、「すごく楽しかったから。話せる人が増えた」、「プレーしてて楽しかったし、たくさん笑った」、「スポーツを通して個々の個性が知れた」というように、例年同様スポーツを通じた交流が多くの新入生に受け入れられている状況が分かる。

アイスレイキングゲームについては、「どんな人がいるのか知れたから」、「話したことの無い人と話せたから」、「やってみると意外と楽しくて友達もできたから」、「出身や好きなことなど気兼ねなく聞ける機会ができたため、友達ができやすかった」と新入生間の交流ができたことが印象に残ったようである。学生間の交流のきっかけとして、スポーツコミュニケーションとは違ったアプローチが好意的に受け止められていることが読み取れた。

朝食会については、「朝食会の場を通じて友好関係を築けた」、「相席した子と仲良くなれたから」等交流の場として機能した点を指摘する意見のほか、「二日間とも朝食がおいしかったから」、「ごはんがおいしかったから」というように食事内容がよかったという点についての指摘も多くみられた。

挨拶の意義は、「日頃あまり意識しない挨拶のことを改めて意識できたから」、「ためになりました」、「たくさん、立ったり座ったりしたから」、「大学生でもしっかりと挨拶をやることでメリハリがついたから」といった記述がみられた。

在校生が説明を行った「大学生になるためのガイドブック」を挙げた学生は16名であった。在校生が全面に出ているプログラムであり、アンケート前の予想ではもっと多く挙げられるのではないかと考えられたが、2015年に行ったアンケートで112名中11名が選択したものと同程度の水準であった。

なお、印象に残った理由にはほとんどネガティブな回答がみられなかった。

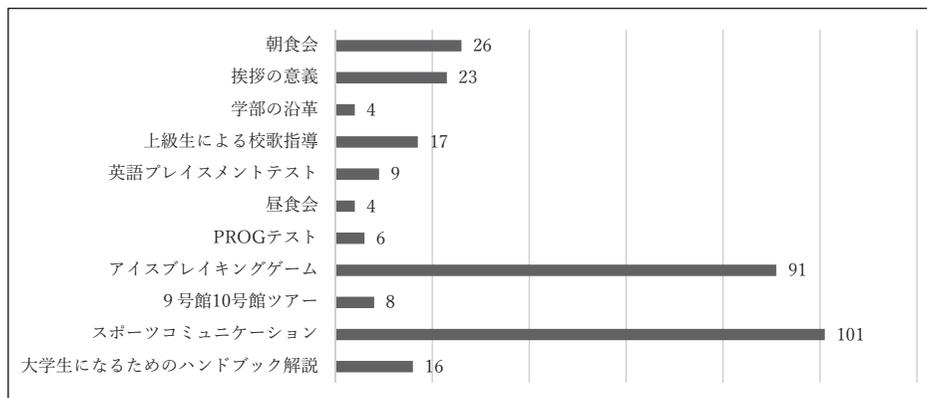


表2 最も印象に残ったプログラム

3-4. プログラム参加後の変化について

「スタートアッププログラム」に参加して、参加前と比較して何か変化があったかという質問に対しては、117名が変化があった、17名が変化がなかった、1名が無回答であった(表1)。

変化があったとする回答では、やはり「友達ができた」とする回答が一番多かった。その他に、「少し居やすくなった」、「呼吸ができるようになった、友達ができたので」、「不安で肩身の狭い思いをしていたが、落ち着いて行動することができた」といった記述があった。一部の新生入生については、入学時の不安が非常に大きいことが想像される。また、「学習意欲がでた」、「大人になるための考えができた」、「大学生活がより楽しみになった」というような記述が複数みられた。

変化がなかったという回答としては、「積極的になれなかった」というもののほかに、「思ったとおりでした」、「現在のシステムを確認したに過ぎないし、新生入生との交流は講義開始と共に図られるものであると考えていたので」等の記述がみられた。また、変化がなかったと回答したうち10名が理由を未記入であった。

以上のように、プログラム参加後の変化があったとする回答は、ほとんどがポジティブなものであった。

3-5. 本プログラムを次年度新生入生に薦めるか

来年度の学科新生入生に「スタートアッププログラム」を薦めたいと思いますかという質問では、131名が薦めたい、3名が薦めたくない、1名が無回答であった。

薦めたいとした回答では、「友達を増やす機会だから」、「はやいうちに仲良くなれるから」といった、新しい人間関係の構築に役立つ点を指摘するものが多かった。新生活での第一の不安要素として、「友人がいない」ということがあると考えられる。

「初めは誰でも不安があると思うから」、「たった二日間で大学に慣れることができる」というように、慣れない新生活の不安を少なくスムーズに大学生活に入ることが出来る点を挙げる記述がみられた。そして、「このプログラムがなかったら、スポーツ科の理念というか、スポーツ科での

自身のあり方がわからないと思うから」、「大学生活をはじめるにあたってやるべきことがわかるから」、「大学4年間の道しるべとなるから」というように大学での学びへの意欲を高めることができる点を指摘する意見も複数みられた。

また、「単純に楽しい」という意見も多くみられた。

薦めたくないとした回答理由を記入したのは2名で、「どっちでもいい」、「朝食が遠くから来ている人は大変だし支度やトイレをする時間がないから」という記述であった。特にプログラムに時間的な余裕が少ない点については今後改善の必要があると考えられる。

4. おわりに

以上のように、2019年に行われた「スタートアッププログラム」の成果と課題について検討を行った。その結果、これまでと同様に、新入生間の交流、新入生と在学生・教職員との交流を通してより良い大学生活のスタートを切るきっかけを提供するという本プログラムの目的は、新入生にも理解され十分に達成されていると考えられる。今後も引き続き、友人関係構築のきっかけ作りや大学とはどのような場なのかといった知識を新入生に対して提供していくことが必要であろう。また、具体的な数字としては表れなかったが、在校生が本プログラムを運営している点に関しては多くの新入生が好意的に捉えており、次年度以降も在校生を中心とした企画・運営の方針を継続したいと考えている。

今後の課題としては、本プログラムの企画運営に関わった学生数が4名と少なく個々の負担が大きかったこと、4名という運営学生数でありつつも、就職活動やアルバイト等の合間をぬって全員での集まりをもつことが非常に難しかったことをどのように調整するかといった点の検討が必要であると考えられる。また、3学科合同プログラムでの他学科への配慮の必要性や、遅刻者への対応、より時間的余裕をもった運営が望まれるのではないかと、といった反省が得られた。このような検討課題はありつつも、アンケート調査から得られた新入生の回答は非常に好意的であり今後も継続して本プログラムを運営していくこととしたい。

注

- 1) 実施日時 2019年4月5日16時、回答者数135名。回答用紙は無記名とし、個人が特定されないように工夫して実施した。なお、本調査票は2015年のスタートアッププログラム実施時と同様のものとした。

参考文献

- 春日芳美、田中博史、只隈伸也、佐藤真太郎 (2015) 初年次教育の効果と課題：スポーツ科学科「フレッシュマンセミナー」の事例から、大東文化大学研究紀要〈社会科学〉53：21-34。
- 春日芳美、田中博史、只隈伸也、佐藤真太郎 (2016) 初年次教育の効果と課題 (2)：スポーツ科学科「スタートアッププログラム」の事例から、大東文化大学研究紀要〈社会科学〉54：1-12。
- 春日芳美、田中博史、只隈伸也、佐藤真太郎 (2017) 初年次教育の効果と課題 (3)：スポーツ科学科におけるアクティブ・ラーニングの利用と有効性、大東文化大学研究紀要〈社会科学〉55：

資料1 スタートアッププログラム日程表

4月4日(木)	
時 間	内 容
8:45	朝食会
9:00	
9:10	
9:20	移 動
9:30	学部長挨拶
9:40	挨拶の意義
9:50	学部の沿革
10:00	
10:10	
10:20	校歌指導
10:30	休憩：教室移動(15min)
10:40	
10:50	
11:00	プレイスメントテスト
11:10	
11:20	
11:30	
11:40	
11:50	昼休み /1coin 昼食会
12:00	
12:10	
12:20	
12:30	
12:40	PROG テスト
12:50	
13:00	
13:10	
13:20	
13:30	休憩
13:40	
13:50	
14:00	
14:10	
14:20	ジャージ採寸 / アイスブレイキング
14:30	
14:40	
14:50	
15:00	
15:10	9号館、10号館ツアー
15:20	
15:30	
15:40	
15:50	
16:00	翌日の説明、挨拶・解散

4月5日(金)	
時 間	内 容
8:45	朝食会
9:00	
9:10	
9:20	移 動
9:30	挨拶・校歌斉唱
9:40	大学生になるための 先輩からのガイドブック
9:50	
10:00	
10:10	
10:20	
10:30	
10:40	
10:50	昼休み /1coin 昼食会
11:00	
11:10	
11:20	
11:30	
11:40	スポーツコミュニケーション (バレーボール大会)
11:50	
12:00	
12:10	
12:20	
12:30	
12:40	
12:50	
13:00	
13:10	
13:20	休憩・移動
13:30	
13:40	
13:50	
14:00	
14:10	履修相談 / 時間割作成
14:20	
14:30	
14:40	
14:50	
15:00	翌日以降の確認、挨拶・解散
15:10	
15:20	
15:30	
15:40	
15:50	
16:00	

(2019年9月26日受理)